平成30年1月5日発行　毎月1回5日発行　オイスカ通巻652号　昭和42年12月27日　第三種郵便物認可　別紙

公益財団法人 オイスカ FURUSATO！1月号

～オイスカ四国のふるさとづくり～

国内センター間の交流

わたしは中部日本研修センターの家政研修生・ガヤニです。スリランカから来ました。12月5日～15日、四国センターで研修を行いました。わたしは今月帰国しますが、帰国後はオイスカスリランカのスタッフになるので、その前にもっといろいろなことを勉強したいと思い、四国に来ました。

9日には修了式に参加しました。中部でもそうですが、たくさんの会員の皆様とボランティアの皆さんが応援して下さっていることは本当に素晴らしいことだと思います。スタッフの先生たちと一緒に朝会にも出ました。「はい」という返事の練習や、毎日の心がけが書かれた「職場の教養」の輪読があって、はじめは難しかったです。でもたくさん練習して、最後の日に司会をすることができました。そのほかの研修も中部と違うところがたくさんあって、研修方法についても考えました。

皆様どうもありがとうございました。

退職のご挨拶

12月22日をもちまして、一身上の都合によりオイスカを退職することとなりました。四国研修センターのスタッフとして僅か8カ月という間でしたが、農業や技能実習関係を担当させてもらい、また、会員様との交流も多々させていただき、充実した四国での生活ができました。ご指導ありがとうございました。これからの四国研修センター、そしてオイスカの益々の発展と皆様のご健康をお祈り申し上げます。（中野博之）

国際ソロプチミスト丸亀の皆さんと

毎年国際ソロプチミスト丸亀様のご協力の下、チャリティーバザーに出店させていただいています。今年は11月19日に丸亀市のひまわりセンターで開催され、研修で作った野菜や加工品を販売しました。また、12月4日には、国際交流の夕べにご招待いただき、おいしいディナーを堪能しながら楽しく交流をしました。研修生は帰国前という事であわただしい毎日でしたが、この会で一息つき、今までの研修や帰国後の予定についても自信をもって話すことができていました。お世話になった皆様、どうもありがとうございました。（永山）

農業指導・デン修了式

1月29日（月）、農業指導・デン（フィリピン）の修了式を執り行います。2年に渡り、農業や研修指導について学び、センターの運営にも積極的に関わり支えてくれました。修了式に参加ご希望の方は四国研修センターまでご連絡ください。

新年の挨拶

四国支部会長・石井　淑雄

新年明けましておめでとうございます。

皆様には良き年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は挑戦と前進、感動の一年であったと思います。四月の支部幹事会では、中野悦子理事長に講話を賜り、十月の四国研修センター設立50周年記念式典では、渡辺利夫会長の講演をいただき、オイスカ理念の琴線に触れる素晴しい機会となりました。八月には、浜田恵造香川県知事が、四国研修センターを訪問され、研修生との意見交換会にご臨席下さいました。11月の全国育樹祭では、「緑化等功労者」として、四国支部に県知事より感謝状が贈呈されました。12月には、6名の研修生が、全ての専門課程で優秀な成績を修め、思い出を土産に帰国いたしました。この様に多くの事業が円滑に遂行出来ましたのも、偏に皆様のお陰であります。

本年も、積極的に継続事業、新規事業に取り組んで参りたく存じます。わけても〝尾の瀬山オイスカ憩の森〟は、遠くない将来、日本有数の山桜の名所になると思います。センターと支部は、申すまでもなく車の両輪であります。海外の優秀な人材を更に多く招聘可能ならしめるのが支部の任務であると思います。研修生は、帰国後は地域社会のリーダーとして活躍するのはもとより、日本の良き理解者として両国の架け橋になっております。さらに、人材育成は国力の強化に繋がり、大きな成果をあげて下さっております。会員増強も喫緊の課題であります。目標の一〇〇〇名の背中がちらちらと見えて参りました。〝一〇〇里の道も九十九里をもって半ばとする〟の格言を胸に頑張って参りたく存じます。

本年が皆様、そしてご家族にとりまして素晴しい年になりますことをご祈念申し上げまして新年のご挨拶といたします。

愛媛県支部会長　宮嶋　嘉則

皇紀2678年、OISCAを支える会員及びスタッフの皆様におかれましては、輝かしい朝日とともに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、地球環境の変調は収まる気配もなく、年を追うごとに深刻化しているように感じます。昨年末、ミャンマー大使を訪問し、樋口特命全権大使とお話しさせて頂く機会に恵まれました。かの地においても異常気象が続き、深刻な事態を招いているとのこと。環境問題は一国に留まらず世界的に解決すべき問題であることを改めて実感いたしました。世界各地で地味ながら真面目な活動を続けるOISCAに対しては、大使からも非常に高い評価を頂き、会員であることを大変誇りに思うとともに強い使命感を感じました。未来のOISCAを支える為に、愛媛県支部として何をすべきか？何ができるか？今年も一所懸命考えていきたいと思っております。本年も引き続きご支援の程、宜しくお願いいたします。

四国研修センター所長　萬代　保男

昨年は四国研修センターの設立50周年式典を盛大に執り行うことが出来ました。これも日頃から会員各位のご支援並びにご協力あってのことと改めてお礼申し上げます。今年はこれまで半世紀に亘って培ってきた人づくりの経験を最大限に発揮すべく、職員全員が一丸となって取り組んで参ります。特に研修センターの施設をフルに活用しての外部からの受託研修や大学生など日本人青年のスキルアップの機会も設けていく予定です。同じ屋根の下、職員及び研修生らとの寝食を通じて、オイスカはもとより研修センターでの人材育成活動への理解者が更に増大していくことを目指します。どうぞ、本年もご支援並びにご指導ご鞭撻を賜ります様よろしくお願い申し上げます。

1月のイベント予定

月日	曜日	イベント名	主催・協力	場所
3日	水	研修生ホームステイより帰所	四国研修センター	ホームステイ協力先
4日	木	国際ボランティア園田氏入所	四国研修センター	四国研修センター
5日	金	仕事始め 神社参拝	四国研修センター	四国研修センター 田村神社、冠纓神社
11日	木	四国支部常任幹事会	四国支部	四国支部
18日	木	高松市立山田中学校交流	高松市立山田中学校	四国研修センター
20・21日	土・日	四国三大学生60名宿泊	香川大学SUIJI推進室	四国研修センター
24日	水	観音寺市立豊田小学校交流	観音寺市立豊田小学校	豊田小学校
29日	月	農業指導・デン修了式	四国研修センター	四国研修センター

「FURUSATO！」1月号　発行
公益財団法人オイスカ四国研修センター
〒761-2103　香川県綾歌郡綾川町陶5179-1
TEL　087-876-3333　FAX　087-876-3334
E-mail; oiscastc@oisca.org

OISCA × VALUE BOOKS
古本で！
「子供の森」計画サポートプロジェクト

☆☆研修生　修了式＆帰国☆☆

平成29年オイスカ四国研修センター　修了式
～新しい出会いと門出を祝福して～

12月9日（土）、今年1年を締めくくる研修生の修了式を執り行いました。研修生6名の修了に国会議員の皆様、香川県知事公室長、綾川町副町長に来席頂き、またその他にも80名の参加がありました。式典では来賓の方々より、日本との懸け橋となるべく自国で様々な貢献を期待していると祝辞を頂き、送辞ではアリンが寂しさを噛みしめながらも修了生へ最後の言葉を送り、答辞ではロベルトが皆様への感謝の挨拶を述べていました。また1年間の研修報告でネレグィが農業や調理、食品加工のみならずリーダーシップや協調性等、様々なことをここで学んだと発表しました。

歓送会では、研修生と参加者との最後の懇親を、別れを惜しみつつ、楽しく会場を盛り上げることができました。

オイスカの会合は色々な国の研修生とのふれあいもあり、様々な立場の方達との出会いの場でもあります。今年も新しい研修生を迎えると共に、新しいドラマを作りたいと思います。皆様本当に有難うございました。（矢野）

皆様の笑顔いつまでも忘れません

日本での研修を自信に自国で頑張ります！

香川県知事表敬訪問

12月5日（火）、香川県知事へ帰国前表敬訪問を行いました。1～2年の香川県滞在で様々なことを学び、それを生かして自国で活動をする報告を致しました。今年は8月、10月に知事と接する機会もあり、成長した姿を見せることもできました。

研修生歓送会

12月7日（木）、四国支部と高松推進協議会の共催で、研修生の送別会を開いていただきました。懇親の場でそれぞれ研修生へ激励、自国への活動の期待の言葉をいただきました。

研修生帰国

12月13、14日、6名の研修生が帰国の途に着きました。早速学んだ料理を現地で披露したと報告を受けました。これからがスタート。また皆様に元気な姿を報告できるようにしていきたいと思います。

帰国後の活動計画　～これからが本番です～

メイ
（フィリピン）

自分のふるさとでお総菜屋さんをはじめます。日本で勉強した健康を考えた美味しい料理を販売します。調味料も色々試して、フィリピンでも日本の味を作りたいです。また、料理教室を開いて村のお母さんたちに栄養バランスを考えた食事作りを教えたいと思っています。

ママ
（フィジー）

自分のふるさとで養鶏に挑戦します。フィジーでは海外からの安い卵が多く、値段も変動しがちです。そこで、養鶏をはじめ地域で卵を安く安定的に供給することを目指します。また、フィジーには仕事がない20代の若者が多くいます。ですから、養鶏を行いながら、そこを同年代の若者が働く場所にしたいと考えています。

ネレグィ
（モンゴル）

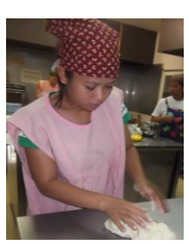
農業専門学校の教員に復職します。そこで乳製品の加工の指導に取り組みます。伝統的なチーズやヨーグルトなどの加工品が多い中で、新しいものを学生に教えたいです。また、自身が経験してその大切さを知った、日本の時間管理や規律訓練を、学校の教育システムに取り入れたいと思っています。そして自分の学校からもオイスカに協力できる人材を育てたいです。

ス
（ミャンマー）

オイスカのセンターでスタッフになります。ミャンマーでは化学肥料や農薬の使い過ぎによる健康被害、土壌の劣化などの問題があります。それらを解決するため、日本で学んだ有機農法を広めたいと思っています。日本とはできませんが、方法をすべて同じにはできませんが、試しながら色々な野菜を有機で作りたいです。また作った野菜の長期保存にも取り組みます。

チョ
（ミャンマー）

オイスカのセンターで食品加工担当として働きます。日本では様々なバザーに参加し、販売方法について勉強しました。また、実際に自分で作ったお菓子を販売したり、野菜を使ったお菓子作りも勉強しました。ミャンマーでも新しい商品や販売先を工夫し、オイスカの安全でおいしい食べ物を多くの人に紹介したいです。



ロベルト
（フィリピン）

オイスカのセンターで有機農業を研修生や村の人に教えます。とくに、日本で学んだ皆周りにある有機資材を利用して、農薬を使わずきれいで美味しい野菜を作る方法をフィリピンでもしたいと思っています。また以前は行っていた養豚を復活させ、センターの収入アップと研修内容の充実にも取り組みます。